

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       | 理科    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.9   | 64    | 9.8   | 61    | 10.4  | 61    |
| 全国     | 9.2   | 66    | 10.1  | 63    | 10.8  | 63    |

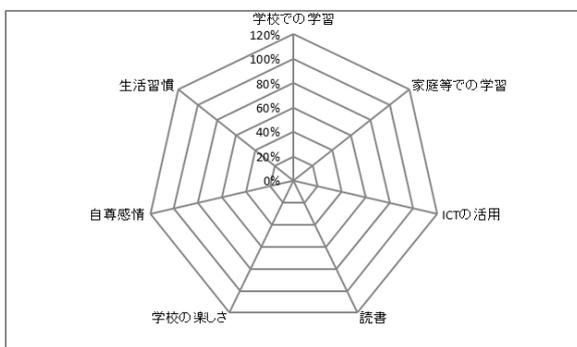
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 内容に関わらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。特に「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については大きく下回っている。  | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかをみる問題<br>学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題<br>言葉には、相手とのつながりをつくるはたらきがあることを捉えることができるかどうかをみる問題 |                       |

|    |             |   |                       |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 「数と計算」領域については、正答率が全国平均とほぼ同程度である。「図形」「データの活用」の領域については、全国平均と比較したときに、他の領域に比べて正答率が低い。                   | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる問題<br>示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題            |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる問題<br>示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる問題 |                       |

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 領域に関わらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。特に「『地球』を柱とする領域」の「思考・判断・表現」の観点については大きく下回っている。   | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | メスシリンダーという器具を理解しているかどうかをみる問題<br>自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題<br>予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題<br>観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題 |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析   |
|--|
| <p>○児童のよさを認めながら指導を続けてきたことが自尊感情の高まりにつながっている。困ったときに教師に相談しやすい関係づくり、雰囲気づくりに努めていかなければならない。</p> <p>○授業でのPCやタブレットの活用が進んでいる。考えを共有したり、意見交換したりする場面での活用を増やすことが課題である。</p> <p>○家庭において携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間を減らし、自主的・計画的に学習に取り組むようにすることが課題である。</p> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

「分かる」「できる」授業をすることを根底に、より意欲が高まるような工夫をする。また、友達の考えを知ったり、意見を交換したりすることのよさや楽しさを感じられるように工夫する。その際にはPCやタブレットを有効に活用する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに本校の課題を記載し、家庭への周知を行う。また、学習計画を示したり、自主学習の仕方を具体的に教えたりすることで、自主的・計画的に学習に取り組むことができるようにする。